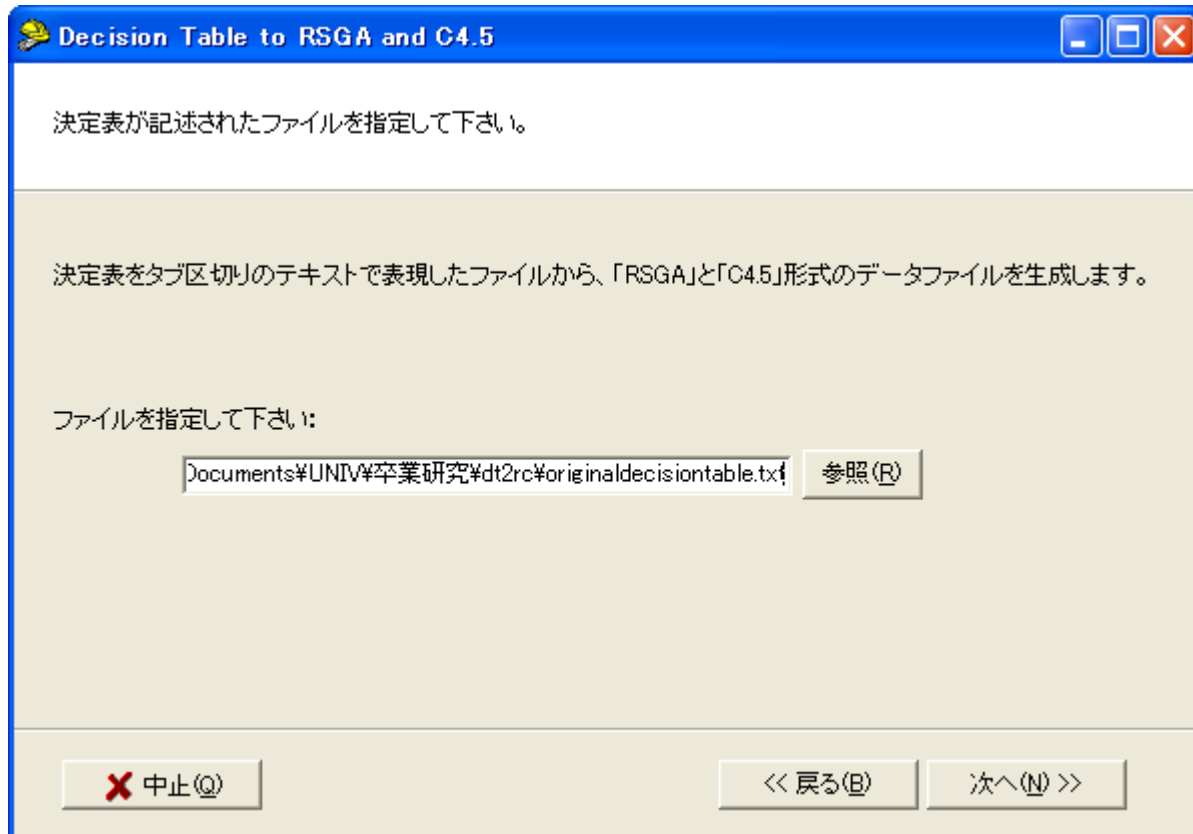


① 元の決定表 (Excel からタブ区切りテキスト形式で出力したもの) を読み込む



② 属性名の行、値が始まる行、決定属性にする列をそれぞれ指定



③ 決定表の中身を確認する

Decision Table to RSGA and C4.5

決定表のうち、使用しない行があれば指定して下さい。

現在の総行数: 行 選択中の行を削除する(O) 決定属性:

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	20	21	22	23	24	25	26	決定	
22	1	5	2	1	1	1	1	1	2	1	1	2	1	3	4	1	4	1	2	2	2	2	1	2	3	2	
23	2	2	2	5	4	1	1	1	5	5	1	2	1	1	3	2	4	4	2	2	2	2	2	2	3	4	
24	1	4	2	1	1	3	1	3	3	5	1	2	1	3	2	1	4	1	2	2	2	2	2	2	3	1	
25	1	3	1	4	2	2	1	2	2	3	1	2	1	1	2	1	3	5	2	2	2	2	2	2	1	3	
26	2	2	3	2	5	5	1	3	5	1	2	2	1	2	4	2	2	2	1	1	2	1	1	1	1	3	
27	1	3	2	2	1	1	1	3	2	5	1	2	1	1	1	1	3	3	1	1	1	1	1	1	2	3	1
28	1	3	1	2	2	1	1	2	3	1	1	2	1	1	1	1	4	3	1	2	2	2	1	2	3	3	
29	4	4	2	5	5	1	1	2	2	5	1	2	1	1	2	1	3	4	1	1	1	1	1	1	2	3	2
30	2	2	1	5	5	2	1	2	2	5	1	2	1	2	5	2	2	5	1	1	1	1	1	2	2	3	2
31	2	1	1	4	4	2	1	2	2	5	1	2	1	2	5	1	2	4	1	2	2	1	1	2	3	4	

中止(O) << 戻る(B) 次へ(N) >>

④ トレーニングデータとして使用する事例数を指定する

(左の表は、決定属性値と事例番号の対応表。右の表は、決定属性値がそれぞれ何個存在するか。)

Decision Table to RSGA and C4.5

いくつかの事例をトレーニングデータとして使用しますか？ 数値で指定して下さい。

決定規則の種類: 種類

決定属性値	事例番号	決定属性値	個数
3	1	3	14
3	2	4	11
3	3	2	18
3	4	1	7
4	5		
4	6		
4	7		
4	8		
4	9		
4	10		

総事例数:

トレーニングデータとして使用する数:

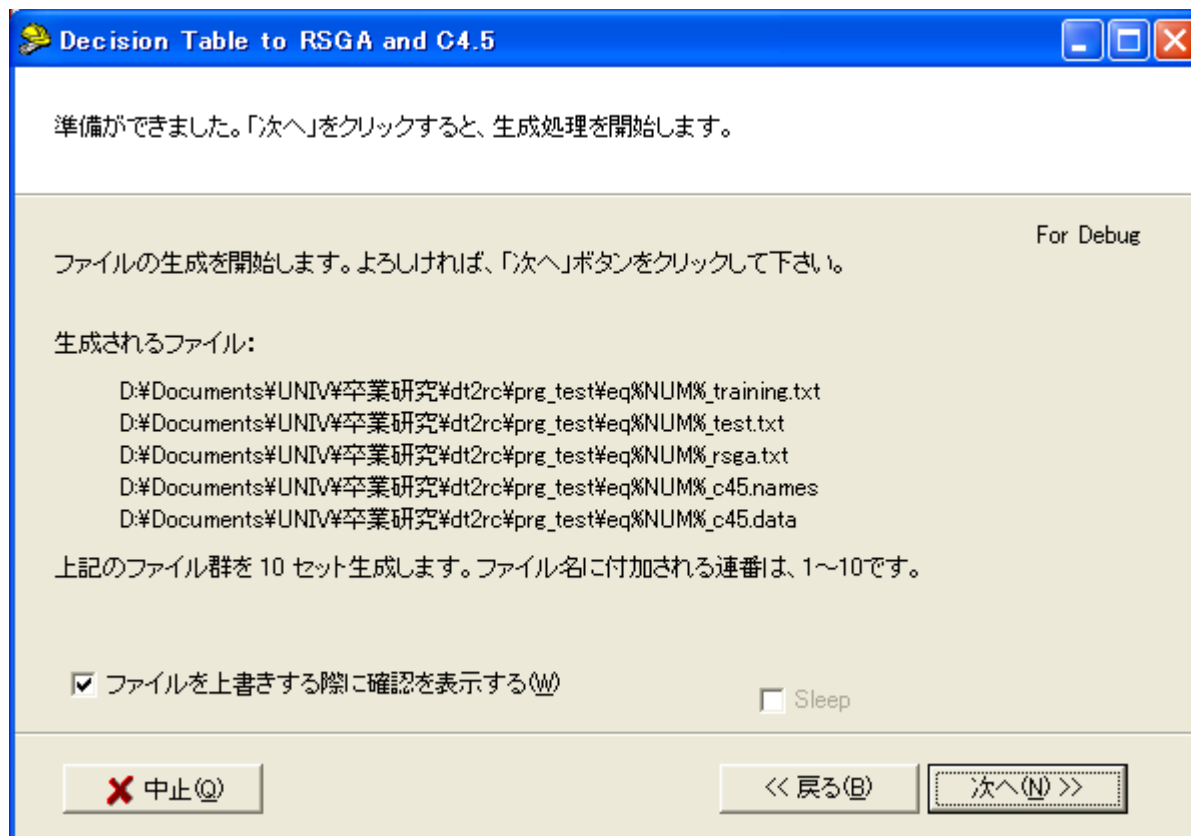
中止(O) << 戻る(B) 次へ(N) >>

⑤ トレーニングデータを何件作成するかを指定

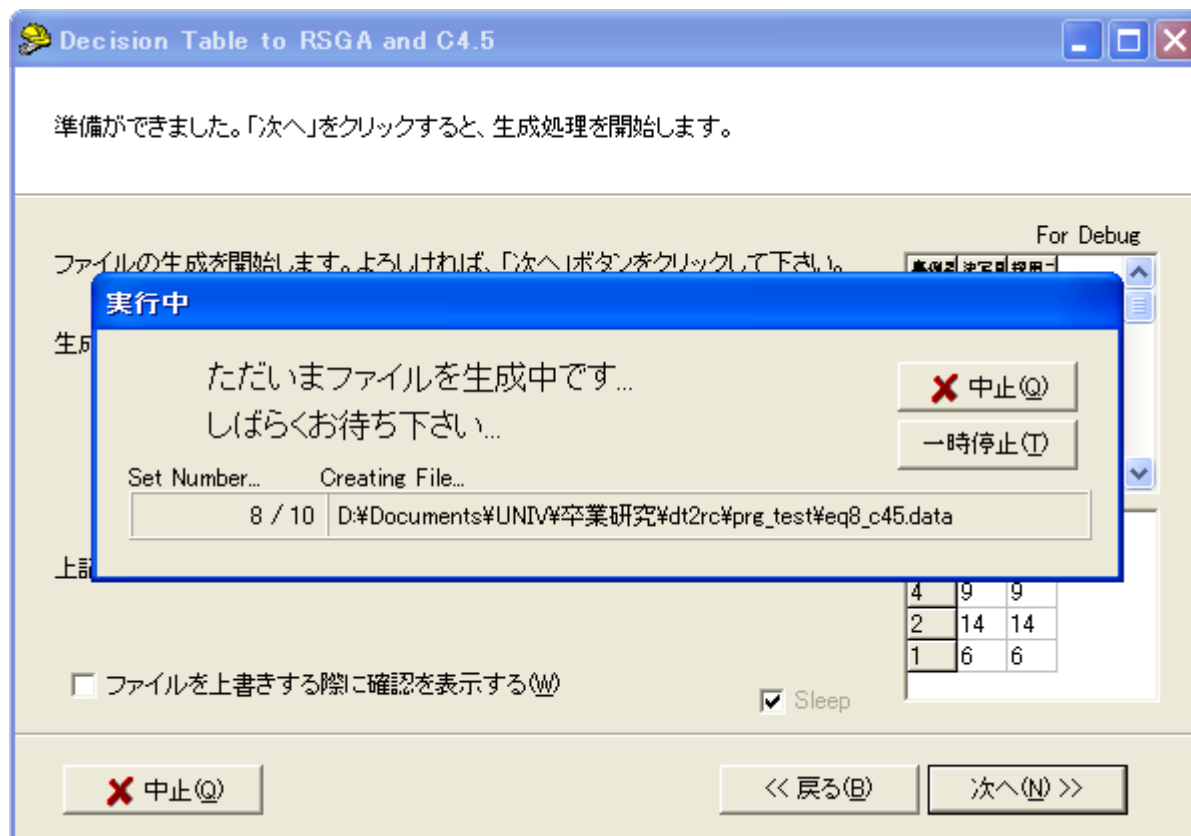
(表は、それぞれの決定属性値を持つ事例が、何個ずつトレーニングデータに含まれるか。)
(事例の選択はランダムだが、必ず全ての決定属性値を同じ割合で含むようになる。)

⑥ 生成先フォルダやベースファイル名、連番の開始番号を指定

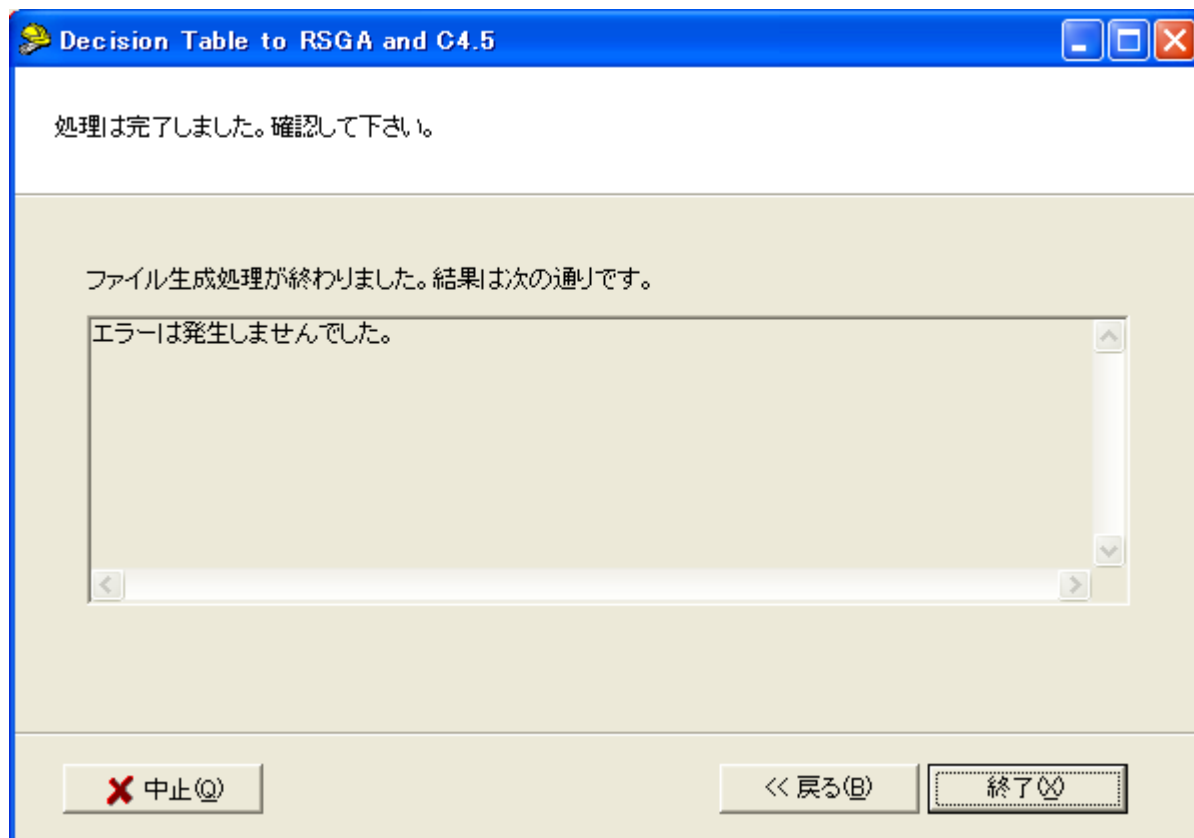
⑦ 作成されるファイルと数・連番の範囲を確認



⑧ 必要なファイルが生成される (1 件につき 6 ファイル)



⑨ ファイルの生成完了



この後の処理...

- ⑩ RSGA・C4.5・C4.5rule を、トレーニングデータの数だけ連続実行するためのバッチファイルを生成（RSGA は、リダイレクト用ファイルも生成）
- ⑪ 3つのプログラムを順にシェルに渡して実行させる
- ⑫ 結果が出揃ったら、テストデータと比較して、正答率を計算。
- ⑬ 結果を表示